

4-1 社会学

研究・教育活動の概要と特色

専門分野・社会学は、文学部発足当初から、全国的な社会学研究および教育の拠点として長い伝統をもっている。理論研究とくにテキストを詳細に読み解く学説研究に定評がある。この伝統をふまえつつも、近年は現代社会の実証的な分析に力点をおき、理論研究と、おもに質的なデータに依拠する実証研究との統合をめざしている。長谷川教授は温暖化問題のメディア報道と政策立案過程に関する、16ヶ国以上が参加する国際比較研究の日本チームのリーダーを務めるとともに、2014年7月に横浜市で開催された世界社会学会議組織委員会委員長を務め、新たに国際社会学会研究活動分科会「環境と社会」の会長に選出されるなど、国際共同研究や国際発信を重視している。長谷川教授の環境社会学、社会運動に関する研究、永井教授のハーバマスおよび地域福祉に関する研究、下夷教授の家族社会学、家族福祉政策に関する研究、小松准教授の災害社会学に関する、とくに災害リスクに関する先駆的な理論的研究は、既存の研究動向に関する詳細な文献研究とそれぞれのフィールドでの実証研究をふまえた、独創性に富んだ高水準の理論的な研究として国内外の高い評価を得ている。

教育においては、とくに外国語文献の読解と社会学実習を重視し、社会調査士・専門社会調査士資格の取得を積極的に奨励している。課程博士の学位取得者の割合もきわめて高い。

研究室員は、行動科学・心理学・哲学などの隣接専門諸分野と連携して、国際的および全国的な研究交流をはかりながら自由闊達に切磋琢磨している。

I 組織

1 教員数（2015年5月20日現在）

教授：3

准教授：1

講師：0

助教：1

教授：長谷川公一，永井彰，下夷美幸

准教授：小松

助教：泉啓

※ 尚，2010年6月から2014年5月まで木村雅史が研究助手（2010年6月~2011

年 5 月), 助教 (2011 年 6 月~2014 年 5 月) を、2014 年 6 月からは泉啓が研究助手を務め、2015 年 4 月からは助教を務めている。

2 在学生数 (2015 年 5 月 20 日現在)

学部 (2年次以上)	学部研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院研究生
54	0	6	5	0

3 修了生・卒業生数 (2010~2014 年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程前 期修了者	大学院博士課程後期 修了者 (含満期退学者)
10	14	3	3
11	16	1	1
12	14	2	0
13	15	3	1
14	16	4	2
計	75	13	7

II 過去 5 年間の組織としての研究・教育活動 (2010~2014 年度)

1 博士学位授与

1- 1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	4	0	0
11	1	0	0
12	0	0	0
13	1	0	0
14	2	0	0
計	8	0	0

1- 2 博士論文提出者氏名, 年度, 題目, 審査委員

大友康博, 2010 年度, 『都市空間の再編をめぐる「脱場所化と再場所化」』

- 審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、教授・鈴木岩弓、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸
- 古平浩，2010 年度、『地方鉄道経営と市民協働のあり方——社会資本のガバナンスと社会的企業の方向』
- 審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、教授・沼崎一郎、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸
- 笹島秀晃，2010 年度、『「都市の美学」の条件——1970 年代以降の都市をめぐる「生産」・「経験」・「権力」についての都市社会学的考察』
- 審査委員：教授・吉原直樹（主査）、教授・正村俊之、教授・長谷川公一、教授・佐藤嘉倫、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸
- 本間照雄，2010 年度、『社会関係の再構築としてのケア改革』
- 審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・吉原直樹、教授・正村俊之、准教授・辻本昌弘、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸
- 泉啓，2011 年度、『ハーバーマスにおける秩序の未完性の理解——同時代史を背景とした考察』
- 審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・正村俊之、教授・座小田豊、准教授・永井彰、准教授・下夷美幸
- 板倉有紀，2013 年度、『ヴァルネラビリティとケアの社会学——自然災害における女性・地域・保健』
- 審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・正村俊之、教授・正村俊之、教授・下夷美幸、教授・阿部恒之
- 牛渡亮，2014 年度、『スチュアート・ホールのネオリベリズム革命論』
- 審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・永井彰、教授・下夷美幸、教授・正村俊之（大妻女子大学教授）
- 大井慈郎，2014 年度、『「構造化された人口移動」論とインドネシア首都郊外の拡大——東南アジア都市化論の再構築を目指して』
- 審査委員：教授・長谷川公一（主査）、教授・永井彰、教授・下夷美幸、教授・佐藤嘉倫

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
----	------------------	----------------	--------------	-----	---

10	4	0	1	1	6
11	2	0	1	0	3
12	2	1	0	0	3
13	4	1	0	2	7
14	5	4	1	1	11
15	1	1	0	0	2
計	18	7	3	4	32

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	4	14	6	2	26
11	1	6	0	2	9
12	5	4	1	0	10
13	0	8	0	2	10
14	6	9	1	0	16
15	0	0	0	0	0
計	16	41	8	6	71

* 2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

安達智史「ブリティッシュネスの解体と再想像——ポスト権限委譲におけるナショナルおよびサブナショナル・アイデンティティ」、『社会学年報』39号, 2010.

本間照雄「沿岸部被災地における被災者支援の現状と課題——南三陸町の現場から」『社会学研究』92号, 2013.

本間照雄「これ以上尊い命を失いたくない：町民が取り組む被災者支援（特集第30回日本環境会議宮城大会）」『環境と公害』43(3), 2014.

板倉有紀「災害現象への社会的アプローチにおける「ヴァルネラビリティ」の視点——災害弱者問題の実践的課題に向けて」『社会学研究』88号,

2010.

板倉有紀「災害研究の展開と「女性の視点」——東日本大震災と「ヴァルネラビリティ」概念」『社会学研究』93号, 2013.

板倉有紀「東日本大震災における「支援」と「ケア」——「ニーズの多様性」と保健師職能」『社会学年報』42号, 2013.

板倉有紀「自然災害における被災者支援と社会的包摂」（特集東日本大震災以降の社会理論の課題）『社会学研究』95号, 2014.

泉啓「『危機』とハーバーマス近代社会論——不法性のユートピアをめぐって」, 『現代社会理論研究』6号, 2012.

泉啓「50年代ハーバーマスにおける時代批判と秩序の思想——時事論, 小論に基づく考察」, 『社会学研究』91号, 2012.

木村雅史「E・ゴフマンの「状況の定義」論——『フレーム分析』の検討を通して」, 『社会学研究』88号, 2010.

小杉亮子「1960年代アメリカの学生運動の形成要因——バークレー闘争を例に」, 『社会学年報』41号, 2012.

小杉亮子「書評・安藤丈将著『ニューレフト運動と市民社会：『六〇年代』の思想のゆくえ』」『季刊ピープルズプラン』ピープルズ・プラン研究所, 63号, 2013.

中川恵「地域支援型農業と持続可能な地域づくり——地域が支える『鳴子の米プロジェクト』から——」『社会学研究』90号, 2012.

中川恵、「生産現場から立ち上がる CSA—提携運動の今日的展開—」『社会学研究』93号、177-198頁、2014年3月。

ニ・ヌンガー・スアルティニ「国際結婚における変化とライフスタイル移民の出現——インドネシア・バリ島に移住する日本人女性の事例から」, 『文化』第77巻第3・4号, 東北大学文学会 2014.

大井慈郎「東南アジア首都郊外インフォーマルセクター——インドネシアの露天商を事例に」, 『社会学年報』42号, 2013.

大井慈郎「途上国都市化論における東南アジア」, 『社会学年報』, 東北社会学会年報編集委員会, 43号, 2014.

土田久美子「日本留学は学生の『人間開発』に寄与するか」（竹中歩との共著）『移動の時代を生きる——人・権力・コミュニティ』東信堂, 2012.

上田耕介「書評：前山総一郎著『直接立法と市民オルタナティブ——アメリカにおける新公共圏創生の試み』」, 『社会学研究』92号, 2013.

牛渡亮「青年スチュアート・ホールの文化政治論——カルチュラル・スタディーズの原問題」, 『社会学研究』 87号, 2010.

牛渡亮「スチュアート・ホールのサッチャリズム論——イギリス新自由主義における退行的近代化と権威主義的ポピュリズム」, 『社会学研究』 89号, 2011.

牛渡亮「スチュアート・ホールのモラル・パニック論——1970年代の逸脱をめぐるメディア報道と新自由主義の台頭」, 『社会学年報』 42号, 2013.

(2) 口頭発表

Adachi, Satoshi "Being Muslim and Being British: Identity Management of Young Muslims," Asia Pacific Sociological Association, 2010.

安藤愛英「平成以降の防災教育の変遷——学習指導要領を中心とした考察」, 第60回東北社会学会大会, 2013年7月21日.

本間照雄「災害ボランティア活動の充実と不具合」, 第60回東北社会学会大会, 2013年7月20日.

磯崎匡「優生政策におけるハーバーマスの理論の応用と展開について」, 第59回東北社会学会大会, 2012年7月16日.

Isozaki, Tadashi "Importance of communication in risk society," Tohoku–Stanford Annual Conference, Stanford University, California, America, 18 June 2013.

Isozaki, Tadashi "A-1 人文社会科学基盤研修 リスク・安全・安心・不平等をテーマとするサマースクール" 「東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」平成25年度シンポジウム, Tohoku university, Sendai, Japan, 2014年3月1日.

Isozaki, Tadashi "Habermas' Discourse Theory and the Concept of Public Sphere" XVIII ISA World Congress of Sociology, Yokohama, Japan, 2014年7月15日.

板倉有紀「災害研究におけるヴァルネラビリティ概念の整理と射程——リスクへの視座をめぐって」第58回東北社会学会大会, 2011年7月18日.

板倉有紀「津波被災地における健康リスクと保健師職能——ヴァルネラビリティとの関連から」第86回日本社会学会大会, 2013年10月12—13日.

板倉有紀「災害研究における「女性の視点」論——「リスク」・「ヴァルネラビリティ」との関連から」第60回東北社会学会大会, 2013年7月21日.

板倉有紀「「東日本大震災以後の社会理論の課題——リスクと機能分化」へのコメント」2013年度東北社会学研究会大会の討論者, 2013年10月19日.

板倉有紀「津波被災地における保健師活動と専門性」日本保健医療社会学会、
2014年5月17日。

ITAKURA, Yuki "RETHINKING OF COMMUNITY BASED PRE-DISASTER
ACTIVITIES" Lessons Learned through Assessing Disaster Preparedness,
Response, Recovery, and Mitigation, International Sociological
Association, Yokohama, 2014年7月15日

ITAKURA, Yuki "The Role of Japanese Public Health Nurses' Activities As
Post-Disaster Assistance" session Looking for Relief : Humanitarian Aid and
Volunteerism in the Aftermath of Disaster, International Sociological
Association, Yokohama, 2014年7月18日

ITAKURA, Yuki "Women's Right and Public Health in time of Disaster from
the perspective of local community" CROSS-CURRENTS IN GENDER AND
DISASTER RESEARCH, Science Council of Japan, 2014年7月20日

鈴木るり子・横山由香里・板倉有紀 「被災地住民の心の健康の変化とソー
シャルネットワーク・ソーシャルキャピタルとの関連」第73回日本公
衆衛生学会大会, 2014年11月

板倉有紀「保健師による被災者支援・ケアと個別性の位置」日本社会学会大
会, 2014年11月

岩尾紘彰「ハーバーマスの「体系的に歪められたコミュニケーション」概念
——1974年および1981年のテキスト比較研究」, 第60回東北社会学会
大会, 2013年7月21日。

岩尾紘彰「マティアス・イーザーによるハーバーマス理論の批判と継承」第
26回批判的社会理論研究会例会、2014年8月31日。

泉啓「危機とハーバーマス批判理論——前衛的介入者の二面性という視点」,
第6回日本社会学理論学会, 2011年9月4日。

泉啓「中間施設の薬物依存症者における『社会』/『ここ』の差異認識——施
設メンバーへの聴き取りから」, 第61回東北社会学会大会, 2014年7月27
日。

木村雅史「ゴフマンの『人-役割図式』論」, 第49回日本社会学会史学会, 2009
年6月27日。

木村雅史「相互行為秩序分析の基礎視角——『フレーム分析』の検討を通し
て」, 第61回関西社会学会大会, 2010年5月30日。

小杉亮子「『新しい社会運動』とアイデンティティ」, 第56回東北社会学会

- 大会, 2009年7月20日.
- 小杉亮子「学生運動の形成過程と要因——Free Speech Movement の分析をもとに」,第57回東北社会学会大会,2010年7月25日.
- Kosugi, Ryoko, "Comparative Study of Student Movements in Japan and the U. S. in the Sixties," the 106th Annual Meeting of the American Sociological Association (Hope and Despair as Socio-Political Phenomena Session), Caesar Palace Hotel, Las Vegas, 2011.
- Kosugi, Ryoko, "Japanese Student Movements in the Global 1960s: Encounter of the Local Context and the Transnational Context," the 2nd ISA Forum of Sociology (RC47, "Forms of Social Justice: Localism and Globalism in Asian Context," Oral Presentation), University of Buenos Aires, Buenos Aires, Argentina, August 2, 2012.
- 小杉亮子「1960年代学生運動再考」,第86回日本社会学会大会,2013年10月12-13日.
- Kosugi, Ryoko and Yasunori Fukuoka, 2014, "Ideas in Conflict: the Campus Protest Culture in the 20th Century Japan," 18th ISA World Congress of Sociology, "Cultural Fields and Movement Trajectories: Comparing the Effect of Different Cultures upon Movements in the Political Process" Session (Oral Presentation), Pacifico Yokohama, Japan (July 15, 2014).
- 松原久「津波被災地におけるコミュニティの役割と課題」第61回東北社会学会大会,2014年7月27日.
- 中川恵「地域サポーターの媒介機能と鳴子の米プロジェクト」,第56回東北社会学会大会,2009年7月20日.
- 中川恵「Community Supported Agriculture (CSA) と提携(Teikei)」,第57回東北社会学会大会,2010年7月25日.
- 中川恵「地域支援型農業と持続可能な地域づくり」環境社会学会大会,2011年6月4日.
- 中川恵「日本版 CSA の類型と展開可能性」第58回東北社会学会大会,2011年7月18日.
- 中川恵「地域支援型農業の展開——宮城県大崎市・鳴子の米プロジェクト」第84回日本社会学会大会,2011年9月17日.
- Nakagawa, Megumi, 2011,"Community Supported Agriculture (CSA) from environmental sociological perspective a case study of "Naruko no Kome

- project (a rice farming project in Naruko hot spring areas),”IFOAM-OWC プレカンファレンス 2011年9月26日.
- Nakagawa, Megumi, 2012,” Think about the agricultural strategy in Japan”, International Rural Sociology Association, Lisbon, Augst 4, 2012.
- 中川恵、「生産者・消費者関係の再構築と生活変革の展望—みんなの放射線測定室・てとてとの事例から—」第47回環境社会学会、桃山学院大学、2013年6月1日
- ニ・ヌンガー・スアルティニ 「日本人女性の国際結婚における新たな展開—バリ島における日本人女性とインドネシア人男性との事例から」, 第57回東北社会学会大会, 2010年7月20日.
- ニ・ヌンガー・スアルティニ 「国際離婚に関わる慣習の問題—インドネシア・バリにおける日本人女性のライフストーリーから」, 第58回東北社会学会大会, 2011年7月18日.
- ニ・ヌンガー・スアルティニ 「ライフスタイル移民と国際結婚—インドネシア・バリ島における日本人女性の事例から」, 第59回東北社会学会大会, 2012年7月16日.
- Suartini, Ni Nengah, “Lifestyle Migration and Cross-cultural Marriage: The case of Japanese Women's Cross-cultural Marriages in Bali Indonesia“, The 11th Asia Pacific Sociological Conference 2012, Ateneo de Manila University, Quezon City, Metro Manila, Oct. 22th, 2012.
- 大井慈郎 「インドネシアIndustrial Estatesにおける都市的機能の考察」, 第57回東北社会学会大会, 2010年7月25日.
- 大井慈郎 「アジアメガシティのインドネシアにおける展開—ジャカルタ拡大首都圏のIndustrial Estatesを事例に」, 第83回日本社会学会大会, 2010年11月6日.
- Ooi, Jiro, 2012, “Suburbanization and disappearing Community in Indonesia: From the perspective of migration and wage increase”, The 11th Asia Pacific Sociological Conference 2012, Ateneo de Manila University, Quezon City, Metro Manila, Oct. 22th, 2012.
- 大井慈郎 「インドネシア首都郊外住民とはだれか—職業と賃金からの考察」, 第85回日本社会学会大会, 2012年11月3日.
- Ooi, Jiro, “Structurally Heightenestructurally Heightened Mobility of Population and Community: Case Studies from the Suburbs in an Indonesian Metropolitan

City,” The International Sociological Association, Pacifico Yokohama, Yokohama, 19th, July, 2014.

大井慈郎・木村雅史・松原久・佐藤優司「地方都市における中心部と郊外」
第61回東北社会学会大会，2014年7月27日。

Sasajima, Hideaki, 2010, "Changing Relationship between the Local Authority and Nonprofit Art Organizations in Creative City Yokohama after the Crisis", XVII ISA World Congress of Sociology (RC21.02 “Creative Cities” after the Fall of Finance”), Gothenburg, Sweden.

富樫広宜「ジョブ型正社員という働き方の可能性」，第61回東北社会学会大会，
2014年7月27日。

土田久美子「エスニック集団間の連携：日系アメリカ人コミュニティを事例として」名古屋大学・カリフォルニア大学サンディエゴ校共同シンポジウム，2011年12月16日・17日。

Tsuchida, Kumiko, “Memories and Social Identities in Mobilization Process: Field study of the Japanese American Reparation Movement”, The 8th Society for the Psychological Study of Social Issues Biennial Conference, June 25, 2010.

上田耕介「社会学理論における「暴力」の欠如と理論化の試み」，第60回東北社会学会大会，2013年7月21日。

牛渡亮 「スチュアート・ホールのサッチャリズム論——新自由主義と上部構造の自律性」，第57回東北社会学会大会，2010年7月25日。

牛渡亮 「スチュアート・ホールのモラル・パニック論——逸脱・メディア・「法と秩序」」，第58回東北社会学会，2011年7月17日。

牛渡亮 「スチュアート・ホールの教育論」，第59回東北社会学会，2012年7月16日。

牛渡亮「アラスカの科学教育におけるふたつの知識体系の融合」，第24回日本国際教育学会研究大会，2013年9月29日。

安田理人 「『障害の社会モデル』の諸類型」，第57回東北社会学会大会，2010年7月25日。

3 大学院生・学部生の受賞状況

今野麻紀子 平成21年度東北大学総長賞（卒業論文『日本映画でみる母親像』），2010年3月

大井慈郎 「世界社会学会議横浜大会：次世代の参画を促す Grant（日本

社会学会若手会員)」獲得，2014年，7月。
 板倉有紀 「世界社会学会議横浜大会：次世代の参画を促すグラント(日本社会学会若手会員)」獲得，2014年，7月。

4 日本学術振興会研究員採択状況

2010年度 PD採用1名，DC採用1名
 2011年度 0名
 2012年度 DC採用1名
 2013年度 0名
 2014年度 DC採用1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

10年度 学部 計2名 カリフォルニア大学サンタクルーズ校（アメリカ合衆国）
 11年度 学部 計1名 カリフォルニア大学デイビス校（アメリカ合衆国）
 大学院 計1名 ハーバード大学，イェンチン研究所（アメリカ合衆国）
 12年度 学部 計3名 ウーメオ大学（スウェーデン），カリフォルニア大学バークレー校（アメリカ合衆国），リヨン第2大学（フランス）
 13年度 学部 計1名 復旦大学（中国）
 14年度 学部 計2名 ハワイ大学、ストックホルム大学

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	3	1	4
11	2	2	4
12	2	0	2
13	2	2	4
14	5	2	7
15	4	0	4
計	18	5	23

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	1	0	1
12	1	0	1
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	2	0	2

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

計7名

- 10年度(D修了) 菱山宏輔 鹿児島大学法文学部 准教授
10年度(D修了) 土田久美子 東北大学国際高等融合領域研究所 助教
10年度(D修了) 清水晋作 盛岡大学文学部 准教授
10年度(D修了) 本郷正武 和歌山県立医科大学医学部 専任講師
10年度(D修了) 古平浩 追手門学院大学地域創造学部講師
11年度(D修了) 齊藤綾美 八戸大学ビジネス学部 専任講師
12年度(D修了) 笹島秀晃 大阪市立大学大学院文学研究科 専任講師

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高教員1名, 報道機関5名

8 客員研究員の受け入れ状況

日本学術振興会特別研究員(PD) 佐藤圭一

9 外国人研究者の受け入れ状況

1名(2010年度)

10 刊行物

『2008年度社会調査実習A班報告書 エコブーム——エコバッグと現代社会、仙台市を事例に』2009年2月.

『2008年度社会調査実習B班報告書 男女共同参画と育児と就業——現代社会にみる男性の育児参加』2009年2月.

『2008年度社会調査実習C班報告書 仙台・宮城DCを通して考える観光の変化——宮城県南三陸町の事例』2009年2月.

『2009年度社会調査実習報告書 生活実態調査からみる蔵王町の現状と課題——維持可能なコミュニティをめざして』2010年2月.

『2011年度社会調査実習報告書 社会問題の社会学』2012年3月.

『2012年度社会調査実習報告書』2013年3月.

『2013年度社会調査実習報告書』2014年3月.

『2014年度社会調査実習報告書』2015年3月.

1.1 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010年度 東北社会学学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2010年10月16日）

2011年度 東北社会学学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2011年10月15日）

2012年度 東北社会学学会事務局

東北社会学研究会事務局

福祉社会学会開催校（2012年6月2日、3日）

日本学術会議シンポジウム開催校（2012年7月29日）

東北社会学研究会大会（2012年10月6日）

2013年度 東北社会学学会事務局

第60回東北社会学学会大会開催校（2013年7月20日、21日）

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2013年10月19日）

2014年度 東北社会学学会事務局

東北社会学研究会事務局

東北社会学研究会大会（2014年11月1日）

2015 年度 東北社会学会事務局
東北社会学研究会事務局
東北社会学研究会大会（開催日未定）

1 2 専攻分野主催の研究会等活動状況

2010 年度 社会学特別講演（2010 年 11 月 27 日）
2011 年度 社会学特別講演（2012 年 3 月 3 日）
2012 年度 社会学特別講演（2012 年 11 月 10 日）
2013 年度 社会学特別講演（2014 年 2 月 5 日）
2014 年度 社会学特別講演（2014 年 11 月 27 日）

1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

行動科学研究室などとともに本専修分野は、21 世紀 COE プログラムに引き続き、吉原教授・長谷川教授が事業推進担当者として、正村教授が研究協力者として、本研究科を中心とするグローバル COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」の一翼を担い、多数の大学院生が GCOE 大学院生、GCOE フェローとして、同プログラムを支えてきた。2003 年度に 21 世紀 COE プログラムがスタートして以降、とくに行動科学・心理学・文化人類学・宗教学・哲学・教育社会学などの隣接専門諸分野との連携を強めてきた。GCOE プログラム以外でも、教員や院生の研究関心に応じて、建築学・地理学・環境学・医学・薬学・情報学など、総合大学としての強みをいかして、文学研究科内にとどまらない全学的な研究交流を活発に行っている。本専修分野の教員はいずれもそれぞれの専門分野で全国学会・全国的な研究組織のリーダー的存在であり、各種の審査委員・評価委員などを務めている。大学院生も全国学会をつうじた交流はもちろんのこと、薬害エイズ問題について全国的な調査研究のネットワークに参加するなど、研究テーマに応じて、主体的に全国の研究者と研究交流を行っている。

また 21 世紀 COE プログラムの開始と前後して、吉原教授およびその指導院生が東南アジア、インドネシアの地域住民組織に焦点をあてて、長谷川教授およびその指導院生が米国やオランダ・ドイツの研究者と環境問題や市民活動に関して、現地でフィールドワークを行うなど、国際的な共同研究や海外での学術調査もさかんにしており、英語での著作の刊行や英語での研究報告も積極的に行っている。正村教授の著書は、日本社会学の名著シリーズの一冊として中国語訳が刊行されている。

長谷川教授の2011年刊行の著書は、現在英語訳および韓国語訳が進行中である。教員・大学院生による国際的なネットワークづくりも活発である。学部生・大学院生も積極的に海外に留学している。留学経験などをもとに、国連職員などの国際公務員をめざす院生や卒業生も増えている。長谷川教授は、日本社会学会世界社会学会議組織委員会委員長として、2014年に横浜で開催した国際社会学会の世界社会学会議の成功の立役者と評価され、国際社会学会のクリスタル・アワードを受賞した。このように、日本の社会学界の積年の懸案である国際化・国際発信という点では、日本の社会学研究室の中でトップ水準にあるといえる。

文献研究においても、2011年4月に学位を得た博士論文に結実した永井教授のハーバマス研究に代表されるような、本研究室のすぐれた伝統でもある緻密なテキストクリティークに依拠して内在的な理解をめざす方法に加えて、2005年3月末に定年で退職した高城和義教授の指導のもとで、未刊行文献を積極的に渉猟し、研究者の全体像をその生涯にわたって描き出そうという野心的な研究も展開されている。理論研究という面では、正村教授も、独自の情報概念を基にして現代のグローバル社会を解明する研究を行っている。さらに、高城和義教授の後任として2007年度に着任した下夷教授は、日本の家族とその歴史を幅広い視点から捉え直す実証的研究を行っており、下夷教授の着任によって社会学研究室の体制は一層充実した。下夷教授は2009年度の東北大学男女共同参画奨励賞（沢柳賞）を受賞している。

なお吉原教授は、大妻女子大学に転出し、定年1年前に2011年3月末で勸奨退職した。さらに正村教授も大妻女子大学に転出し、2013年3月末で退職した。2015年度から小松准教授が着任した。

本研究室はおもに東北地方を対象とする農村調査でも従来多くの成果をあげてきたが、吉原教授が東北都市学会を組織し、中心となって『東北都市事典』を編纂したほか、永井教授も高齢者ケアに焦点をあて、東北地方や中部地方、沖縄県などをフィールドとして地域福祉に関する研究を行っている。長谷川教授は青森県六ヶ所村のむつ小川原発・核燃料サイクル施設問題の研究を続けるとともに、北海道・東北地方の市民出資による「市民風車」プロジェクトの国際比較研究を行っている。

本研究室では吉原教授が『災害の社会学』を編集するなど、社会学的な災害研究の蓄積を有してきたが、東日本大震災の発生に対応して、正村教授は社会情報学会や日本社会学会、東北社会学会における震災関連プロジェクトの中心リーダーの1人として、学会大会での特別セッションの企画・司会などとして活躍し、長谷川教授も、南三陸町の復興過程について日生財団の研究助成を得て事例研究を行うと

もに、震災問題および原発震災に関する論文・著作をつうじて社会的発言を行い、また韓国・台湾・メキシコ・ドイツ・フィンランド・英国・米国・オーストラリア・スイス等でこの問題に関して招待講演を行っている。小松准教授は、リスク論の視点から東日本大震災と福島原発事故を論じている。2013 年度には東日本大震災をふまえた災害リスクと地域社会に関する博士論文が提出され、2011 年度以降の卒論においても約 4 割は、東日本大震災からの復興や防災・減災、震災体験の記録化などを扱っている。

本研究室の教員は専門分野に関連する政府・地方公共団体関係機関等の委員等を数多く務めるほか、特定非営利法人の役員などとしても地域社会に貢献している。

教育においては、とくに英語・ドイツ語の外国語文献の読解と社会学実習を重視し、社会調査士・専門社会調査士資格の取得を積極的に奨励している。社会学実習は、とくに聴取などの質的調査に重点をおいているが、調査の企画から実査、報告書の刊行まで受講生自身の主体性を重視している。社会学実習の調査報告書は、教員・院生の指導・助言のもとで受講生自身が執筆し、ほぼ毎年刊行している。課程博士の学位取得者は通算で 38 人、この 5 年間では 8 人にのぼっている。とりわけそのうち 16 本が、学位論文をもとに研究書として刊行され、学会賞を受賞するなど高い評価を得ている。とくに小松丈晃が 2000 年度に提出した学位論文は『リスク論のルーマン』（勁草書房）として 2003 年 7 月に刊行され、2002 年 3 月に刊行された李妍焱の『ボランティア活動の成立と展開——日本と中国におけるボランティア・セクターの論理と可能性』（ミネルヴァ書房）は、第 1 回日本 NPO 学会研究奨励賞・第 2 回生協総研「研究賞」を受賞した。齋藤綾美が 2005 年度に提出した課程博士論文『インドネシアの地域保健活動の成立と展開——地域社会から見た「開発の時代」』は同題で御茶の水書房から 2009 年度に刊行され、第 4 回地域社会学会奨励賞、2007 年度の東北大学男女共同参画奨励賞（沢柳賞）を受賞した。帯谷博明が 2002 年度に提出した学位論文は『ダム建設をめぐる環境運動と地域再生——対立と協働のダイナミズム』（昭和堂）として 2004 年 10 月に刊行され、本郷正武が 2003 年度に提出した学位論文は『HIV/AIDS をめぐる集合行為の社会学』（ミネルヴァ書房）として 2007 年 2 月に刊行された。清水晋作が 2003 年度に提出した学位論文は『公共知識人ダニエル・ベル——新保守主義とアメリカ社会学』（勁草書房）として 2011 年 3 月に刊行され、2012 年度日本社会学史学会奨励賞を受賞した。田代志門が 2007 年度に提出した学位論文は『研究倫理とは何か——臨床医学研究と生命倫理』（勁草書房）として 2011 年 9 月に刊行され、第 9 回日本医学哲学・倫理学会賞を受賞した。青木聡子が 2005 年度に提出した学位論文は『ド

イツにおける原子力施設反対運動の展開——環境志向型社会へのイニシアティブ』(ミネルヴァ書房)として2013年10月に刊行され、日本ドイツ学会奨励賞を受賞した。安達智史が2008年度に提出した学位論文は『リベラル・ナショナリズムと多文化主義——イギリスの社会統合とムスリム』(勁草書房)として2013年12月に刊行された。

このように本研究室の課程博士論文は質の面でも全国的に高い評価を得ており、学位取得者のほとんどは、公募で大学などの研究職についている。青木聡子が2006年10月1日付けで名古屋大学の講師として採用されたほか、奈良女子大学のような有力大学、大妻女子大学や駒澤大学、立正大学などのような首都圏の私立大学、東北学院大学などで公募によりポストを得ている。大学院生の出身大学は、京都大学・一橋大学・大阪大学・筑波大学・広島大学・金沢大学・静岡大学・東京学芸大学・信州大学・新潟大学・早稲田大学・中央大学・法政大学・立命館大学(順不同)など全国にわたっている。

近年は、本専修分野内で学部から大学院にすすむ「内部進学者」が減っており、内部進学者の確保が大きな課題となっている。仙台にあるという立地条件にも規定され、本専修分野の研究および大学院教育に関する専門家レベルでの評価はきわめて高いが、その割には大学院受験者が増えないという悩みを抱えている。

課程博士の学位取得者は着実に増えており、その質も全国的にみて高い水準にあるということは、本専修分野出身の中堅の研究者にもよい刺激を与えており、論文博士の学位をもとめて、長年の研究成果をまとめ、本研究室に学位論文を提出する者も増えている。本研究室に提出された学位論文の中には、永野由紀子『現代農村における「家」と女性』(刀水書房,2005年)のように、学会賞を受賞した作品もある。

東北社会学研究会の事務局は本専攻分野の研究室にある。ともに全国学会である東北社会学会・東北社会学研究会の運営を長年にわたって実質的に支えてきたのは、本専攻分野の教員・助教・助手・大学院生であるといつて過言ではない。近年は、『社会学研究』が半年刊になるなど、学術雑誌の発行も順調にすすんでいる。

本専攻分野は、卒業生の主な就職先、卒論・修論・博論の表題一覧、所属院生の研究テーマや大学院志望者へのアドバイスを含む、独自のウェブサイトをもっており、内容の充実度は高い。吉原・正村・長谷川教授も研究活動などを紹介するウェブサイトを設置・運営しており、研究内容などの発信につとめている。

Ⅲ 教員の研究活動 (2010年度～2015年5月20日)

1 教員による論文発表等

1-1 論文

吉原直樹 「バリにおける日本人社会と多重化する情報環境」(共著),『東北大学文学研究科研究年報』第59号, pp.84-126,2010.

Naoki YOSHIHARA “Where has the people’s safety in the borderless society gone?,”*Procedia-Social and Behavioral Sciences*,2,pp.24-27,2010.

吉原直樹 「コミュニティへの多角的な問いかけ」,『東北都市学会研究年報』10号, pp.39-56,2010.

吉原直樹 「移動研究のフロンティア」, M.フェザーストンほか編著, 近森高明訳『自動車と移動の社会学』法政大学出版局, 2010,pp.437-448.

正村俊之 「ジンメルと近代的思想圏——原理論・方法論における第三の立場」,『社会学研究』87号, pp.30-68,2010

正村俊之 「ジンメル理論の革新性——デュルケーム, ウェーバーとの関連において」,2010

正村俊之 「グローバル資本主義への視座」,『学術の動向』第16巻第4号 pp.36-41,2011

正村俊之 「『社会と個人』の根源にあるもの」『社会学史研究』第33号, pp.59-71,2011

正村俊之 「パネル討論『大震災と向き合う』」(西田豊明・小方孝・野田五十樹との討論記録)『人工知能学会』第26巻5号,pp.494-513,2011

正村俊之 「現代社会における境界変容——グローバル化と情報化の構造的関連」『思想』11月号, pp.88-116,2011

正村俊之 「震災とリスク・コミュニケーション——日本社会におけるリスクの社会的構成」『札幌学院大学総合研究所 BOOKLET4 震災を乗り越える社会情報学——札幌学院大学総合研究所シンポジウム・札幌学院大学社会情報学部開設20周年記念』 pp.70-92,2012

正村俊之 「コミュニケーション論の系譜と課題」『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房 2012.

正村俊之 「金融恐慌にみるコミュニケーションの成立機制——神・貨幣・情報空間」『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開をめざして』勁草書房, 2012.

正村俊之 「ポスト産業資本主義の論理：新自由主義はなにをもたらしたのか」

- 『フォーラム現代社会学』第11号, pp. 70-80, 2012.
- 正村俊之「リスク社会論の視点からみた東日本大震災——日本社会の三つの位相」, 田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学——提起された問いをめぐって』ミネルヴァ書房, 2013.
- 正村俊之「問われる『科学とメディア』への信頼」『学術の動向』2013年1月号, pp. 42-45.
- 長谷川公一「低炭素社会に向けて——コペンハーゲン会議の現場から」『環境と公害』39-3, pp.14-20, 2010, 1.
- Koichi HASEGAWA, “Tamito Yoshida: An Unknown Master of Japanese Sociology,” *International Journal of Japanese Sociology* 19, pp.126-132, 2010, 2.
- Koichi HASEGAWA, “Collaborative Environmentalism in Japan” in H. Vinken et al. eds *Civic Engagement In Contemporary Japan: Established And Emerging Repertoires*, Springer, pp.84-100, 2010, 5.
- Koichi HASEGAWA, “Cultivating Social Diversity and the Role of NGOs/NPOs,” Kunihiro KIMURA ed., *Minorities and Diversity*, Melbourne: Trans Pacific Press, pp.113-135, 2011,3.
- Koichi HASEGAWA, “A Comparative Study of Social Movements for a Post-Nuclear Energy Era in Japan and the U.S.,” in J. Broadbent and V. Brockman (ed.), *East Asian Social Movements: Power, Protest and Change in a Dynamic Region*, New York: Springer, pp. 63-79, 2011,3.
- 長谷川公一「廃墟からの新生」内橋克人編『大震災のなかで』岩波書店, pp.254-271, 2011,5.
- 長谷川公一「「もう一つのチェルノブイリ」を待たねばならなかったのか」『朝日ジャーナル 原発と人間』(2011年6月5日号) pp.66-69, 2011,6.
- 長谷川公一「東日本大震災と復興をめぐる諸課題——宮城県を中心に」『環境と公害』41-1, pp.9-14, 2011,7.
- 長谷川公一「東日本復興への希望」『arc』15号, pp.38-45, 2011,7.
- 長谷川公一「脱原子力社会へ——エネルギー供給と四番目のE」『現代の理論』29号, 2011,10.
- 長谷川公一「東日本大震災・福島原発震災以後の環境社会学に向けて」『環境社会学研究』17号, 2011,10.
- 長谷川公一「リスク社会と倫理」大塚直・大村敦志・野澤正充『社会の発展と権利の創造——民法・環境法学の最前線』有斐閣, pp.829-846, 2012,2.

- Koichi HASEGAWA, "Facing Nuclear Risks: Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster," *International Journal of Japanese Sociology*, No.21, pp. 84-91, 2012,3.
- 長谷川公一「巨大開発から核燃基地へ」(船橋晴俊との共著) 船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子『核燃料サイクル施設の社会学——青森県六ヶ所村』有斐閣,pp.19-84, 2012,3.
- 長谷川公一「地域社会と住民運動・市民運動」 船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子『核燃料サイクル施設の社会学——青森県六ヶ所村』有斐閣,pp.209-254, 2012,3.
- 長谷川公一「日本の原子力政策と核燃料サイクル施設」 船橋晴俊・長谷川公一・飯島伸子『核燃料サイクル施設の社会学——青森県六ヶ所村』有斐閣,pp.317-349, 2012,3.
- 長谷川公一「危機からの再生——原発閉鎖でよみがえった電力公社」 『社会運動』 第 384 号,pp.36-40, 2012,3.
- 長谷川公一「コンセンツの向こう側——『六ヶ所村』は何を提起しているのか」 『社会運動』 第 385 号,pp.31-35, 2012,4.
- 長谷川公一「自然エネルギーは地域の力——原発依存からの脱却は可能か」 『社会運動』 第 386 号,pp.27-33, 2012,5.
- 長谷川公一「福島第一原発事故から学ぶ脱原子力社会」 『環境と公害』42-1,pp.2-7, 2012,7.
- 長谷川公一「フクシマは世界を救えるか——脱原子力社会に向かう世界史的転換へ」 田中重好・船橋晴俊・正村俊之編『東日本大震災と社会学——提起された問いをめぐって』 ミネルヴァ書房, pp.197-223, 2013,3.
- 長谷川公一「市民社会論からみたフクシマ原発事故」 『日本における政策分析——その現状と課題』(文部科学省科学研究費補助金「わが国における政策分析と政策過程についての比較政策分析学的研究」研究成果中間報告論集(研究代表者:足立幸男) pp.229-239, 2013,3.
- 長谷川公一「フクシマ原発事故と日本の市民社会」 『ボランティア研究』 2,pp.86-94,2013,4.
- 長谷川公一「リスク社会と再帰性——福島第一原発事故をめぐって」 宮島喬・船橋晴俊・友枝敏雄・遠藤薫編『グローバリゼーションと社会学——モダニティ・グローバリティ・社会的公正』 ミネルヴァ書房, pp.120-138, 2013,7.
- 長谷川公一「社会学における国際化の意義」 『理論と方法』28-2,pp.309-318,2013,

10.

長谷川公一「研究倫理のローカル性と普遍性」『社会学研究』93, pp. 93-101,2014,1.

長谷川公一「3.11 災害に立ち向かうリスク下の日本の市民社会——連帯／孤立、信頼／不信の両義性」猪口孝編『現代日本の政治と外交 4 日本とドイツ——戦後の政治的变化』原書房, pp. 90-105,2014,3.

長谷川公一「護憲の危機」『社会運動』408,pp. 9-12, 2014,3.

Koichi HASEGAWA,“Anti-nuclear Movements in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Accident,” Kazuhiro Ueta and Yukio Adachi eds., *Transition Management for Sustainable Development*, Tokyo: United Nations University Press, pp. 251-272, 2014,6.

Koichi HASEGAWA,“The Fukushima Nuclear Accident and Japan's Civil Society: Context, Reactions and Policy Impacts,” *International Sociology*, No.29-4, pp. 283-301, 2014,7.

Koichi HASEGAWA,“Rethinking Civil Society in Japan: Before and After the Fukushima Nuclear Disaster,” T. Miyake and A. Revelant eds., *Rethinking Nature in Contemporary Japan: Science, Economics, Politics*, Venice: Edizioni Ca' Foscari Publisher, pp.55-70, 2014, 10.

長谷川公一「世界社会学会議横浜大会を振り返る—— 経過・意義と今後の課題」『社会学評論』65-3, pp. 308-316, 2014, 12.

長谷川公一,「被災地域コミュニティの復興と再生をどう考えるのか」『環境と公害』44-3, pp. 30-33, 2015, 1.

永井彰「ハーバーマスの社会理論——視座と方法」東北大学大学院文学研究科(博士学位論文), 2011,4.

永井彰「福祉社会学からみた小規模・高齢化集落研究の課題」『福祉社会学研究』8号, pp.56-60, 2011,5.

永井彰「福祉課題への地域住民の関与をめぐって」『文化』76 巻 1・2号, pp.99-114, 2012,9.

永井彰「ハーバーマスの民主主義的法治国家論の現代的射程——福祉国家をめぐる諸問題とのかかわりで」『東北大学文学研究科研究年報』62号, pp.80-102, 2013,3.

永井彰「地域自治の変容と地域ケア・システム——長野県上水内郡小川村の事例」『社会学研究』92号, pp.141-161, 2013,6.

- 永井彰「地域社会の自立を考える」東北大学大学院文学研究科出版企画委員会編『「地域」再考——復興の可能性を求めて』pp.1-32, 2014.3.
- 下夷美幸「養育費問題からみた日本の家族政策——国際比較の視点から」, 『比較家族史研究』25号, 比較家族史学会, pp.81-104, 2011.3..
- Miyuki SHIMOEBISU, “Single Mothers and Child Support Policies in Japan,” Kunihiro Kimura (ed.), *Minorities and Diversity*, Trans Pacific Press, pp.15-30, 2011.3.
- 下夷美幸「家庭生活を取り巻く社会的状況」新・保育士養成講座編纂委員会編『家庭支援論』全国社会福祉協議会, pp.29-51, 2011.3.
- 下夷美幸「東日本大震災と男女共同参画——「人間の復興」に向けて」『福祉社会学研究』9号, pp.63-80, 2012.6.
- 下夷美幸「オーストラリアの養育費制度——もうひとつのアングロサクソンモデル」『養育費確保の推進に関する制度的諸問題』養育費相談支援センター(家族問題情報センター 厚生労働省委託事業), pp.40-61, 2012.8.
- 下夷美幸「イギリスにおける養育費政策の変容——子どもの貧困対策との関連から」『大原社会問題研究所雑誌』649号, pp.1-15, 2012.11.
- 下夷美幸「母子世帯と養育費」ジェンダー法学会編『固定された性役割からの解放(講座 ジェンダーと法 第2巻)』日本加除出版, pp.189-203, 2012.11.
- 下夷美幸「ジェンダー・エクイティと福祉国家」武川正吾編『公共性の福祉社会学』東京大学出版会, pp.53-71, 2013.2.
- 下夷美幸「家族政策と不平等——母子世帯に焦点をあてて」佐藤嘉倫・木村敏明編『不平等生成メカニズムの解明』ミネルヴァ書房, pp.99-119, 2013.3.
- 下夷美幸「アメリカにおける養育費制度」「イギリスにおける養育費制度」「オーストラリアにおける養育費制度」「スウェーデンにおける養育費制度」棚村政行編『面会交流と養育費の実務と展望』日本加除出版, pp.278-301, 2013.5.
- 下夷美幸「子どもの貧困と養育費」『消費者法ニュース』96号, pp.289-291, 2013.7.
- 下夷美幸「離別した父親の扶養義務の履行確保について——日本とアメリカの養育費政策」『貧困研究』12巻, pp.80-90, 2014.7.
- 下夷美幸「離婚母子家庭と養育費」『社会福祉研究』120号, pp.145-151, 2014.7.
- 下夷美幸「ケア政策における家族の位置」『家族社会学研究』27巻1号, 印刷

中.

下夷美幸「「家族」への支援——養育費政策の現状と課題」『ジェンダーと法』
12号, 印刷中.

小松丈晃「グローバル化のなかの排除／包摂と機能分化—イスラーム問題を軸に
して—」『社会学研究』89号, pp.65-83, 2011.7.

小松丈晃「システミック・リスクと社会の〈危機〉—社会システム理論による複合
災害の記述—」『現代社会学理論研究』6号, pp.13-25, 2012.3.

小松丈晃「科学技術の「リスク」と組織—3.11以後のリスク規制に関するシステ
ム論的考察—」『年報科学・技術・社会』22号, pp.89-107, 2013.7.

小松丈晃「科学技術のリスクと〈制度的リスク〉」『社会学年報』42号, pp.5-15,
2013.7.

小松丈晃「無知をめぐる争いと科学／政治」『社会学研究』94号, pp. 55-79,
2014. 4.

泉啓「現状変革と安定性との間——マルクヴァートとハーバーマス社会理論
の交錯点の考察」『文化』78(1・2), pp.1-17, 2014.9.

泉啓・若林真衣子「仙台市における依存症支援のネットワーク形成史——T
病院と自助グループの協働関係に注目して」『東北文化研究室紀要』56
号, pp.21-37, 2015.3.

1-2 著書・編著

Naoki YOSHIHARA *Fluidity of Place*, Trans Pacific Press, 2010, pp.233.

吉原直樹 『コミュニティ・スタディーズ——災害と復興, 無縁化, ポスト
成長の中で, 新たな共生社会を展望する』作品社, 2011.

吉原直樹 『モビリティと空間の物語——社会学のフロンティア』(編著),
東信堂, 2011.

正村俊之 『生と死への問い』(編) 東北大学出版会, 2011年

正村俊之 『身体・メディア・情報空間——コミュニケーション論の新たな展開
をめざして』(編著)勁草書房, 2012.

正村俊之 『東日本大震災と社会学——提起された問いをめぐる』(共編著),
ミネルヴァ書房, 2013.

長谷川公一 『脱原子力社会の選択 増補版——新エネルギー革命の時代』
新曜社, 2011, 5.

長谷川公一 『脱原子力社会へ——電力をグリーン化する』岩波書店, 2011,9.
長谷川公一 『核燃料サイクル施設の社会学——青森県六ヶ所村』(共著) 有斐閣, 2012,3.

長谷川公一 『温暖化政策の政策形成過程と政策ネットワークの国際比較研究 質問紙調査 第一次報告書』(編) 科学研究費補助金「温暖化政策の政策形成過程と政策ネットワークの国際比較研究」研究成果報告集(研究代表者:長谷川公一), 2014,3.

Koichi HASEGAWA *Beyond Fukushima: Toward a Post-nuclear Society*: Trans Pacific Press, 2015, 印刷中.

下夷美幸 『養育費政策の源流——家庭裁判所における履行確保制度の形成過程』法律文化社, 2015, 印刷中.

小松丈晃(春日淳一・高橋徹との共著) 『滲透するルーマン理論—機能分化論からの展望—』文眞堂, 2013.3

1-3 翻訳, 書評, 解説, 辞典項目等

(1) 翻訳

ニクラス・ルーマン著,小松丈晃訳『社会の政治』法政大学出版局,2013. (Niklas Luhmann,Die Politik der Gesellschaft,Suhrkamp,2000 の全訳)

ニクラス・ルーマン著,小松丈晃訳『リスクの社会学』新泉社,2014.(Niklas Luhmann,Soziologie des Risikos,Walter de Gruyter,1991 の全訳)

(2) 書評

永井彰 「高橋泉著『沖縄宮古島下地民俗誌——1974-1976 フィールドワークの記録』, 『社会学研究』 90, pp.165-169, 2012,3.

下夷美幸 「書評・神原文子『子づれシングル—ひとり親家族の自立と社会的支援』」, 『福祉社会学研究』 8号, 福祉社会学会, pp.145-149, 2011.6.

小松丈晃「ニクラス・ルーマン著(馬場靖雄・高橋徹・赤堀三郎・菅原謙訳)『社会の社会(1)(2)』」 『社会学研究』 87号, pp. 187-193,20.

小松丈晃「書評・松本三和夫著『テクノサイエンス・リスクと社会学』東京大学出版会、2009年」 『化学史研究』 39(4), pp. 46-49, 2012. 12.

(3) 解説

- 正村俊之 「グローバリゼーションと境界変容」『書齋の窓』2010年1-2月合併号, pp.48-52, 2010
- 正村俊之 「巻頭言 ジンメル理論と時代の学問的関心」, 『社会学研究』87号, pp.1-3, 2010
- 正村俊之 「巻頭言 政治と宗教をめぐる二つの位相」, 『社会学研究』89号, pp.1-4, 2011
- 正村俊之 「集合知が求められる時代——社会と個人の関係変容」『社会情報』21号, pp.21-26, 2011.
- 正村俊之 「巻頭言 公正と承認の社会的・思想的な背景」, 『社会学年報』41号, pp.1-3, 2012.
- 正村俊之 「シリーズ企業との対話 6: 東北放送との対話: 東日本大震災からリスク・コミュニケーションの“これから”を考える」, 『東北大学文学部ブックレット 考えるということ』No.7, 2012.
- 正村俊之 吉田民人『社会情報学とその展開』の編集・「あとがき」および座談会「社会情報学と吉田理論」所収, 勁草書房, 2013.
- 正村俊之 吉田民人『近代科学の情報論的転回——プログラム科学論』の編集・「あとがき」, 勁草書房, 2013.
- Koichi HASEGAWA “Yokohama: The Harbor of Hope,” *Global Dialogue 1-4*: 10-11, 2011, 5.
- Koichi HASEGAWA “Voices from Ruins: Rebuilding a Real Sustainable Community,” *Newsletter of Research Committee 24*, No.38: 3-4, 2011, 5.
- 長谷川公一 「岐かれ路——3月11日以後の日本再生」『環境と公害』41巻3号, pp.138, 2012, 1.
- 長谷川公一 「エネルギー供給の倫理と責任」『科学』p.1, 2012, 9.
- Koichi HASEGAWA “The Yokohama Congress: a Bridge to a More Equal World,” *Global Dialogue 2-5*: online version, 2012, 7.
- Koichi HASEGAWA “Haiku: Beauty in Simplicity,” *Global Dialogue 3-3*: online version, 2013, 4.
- 長谷川公一 「環境とエネルギーの政策的統合——山形県の『環境エネルギー部』」『環境と公害』42-1, pp.60, 2013, 7.
- 長谷川公一 「『三太郎の日記』刊行百周年」『學士会会報』904, pp.33-37, 2014, 1.

- Koichi HASEGAWA “Sociology in Japan: History, Challenges, and the Yokohama World Congress,” *American Sociological Association, Footnotes*, pp.5, 2014.4.
- Koichi HASEGAWA “Welcome from the Chair of the Japanese Local Organizing Committee,” *International Sociological Association, World Congress of Sociology, Program Book*, pp.17-9, 2014.7.
- 長谷川公一 「君は闘っているか」『災後の社会学 No.3 震災科研プロジェクト 2014 年度報告書』, pp.86-89, 2015.3.
- 永井彰 「巻頭言 高齢者の地域生活支援の社会学」『社会学研究』92 号, pp.1-13, 2013.6.
- 永井彰 「地域社会の異質性の増大と福祉課題の変化」福祉社会学会編『福祉社会学ハンドブック——現代を読み解く 98 の論点』中央法規出版, pp.96-97, 2013.7.
- 下夷美幸 『養育費確保に関する制度的課題——日本及び諸外国の養育費制度の比較から』（ブックレット）, 家族問題情報センター・養育費相談支援センター, 2010.10.
- 下夷美幸 「コメント 公正と承認——母子世帯問題から考える」『社会学年報』41 号, pp.39-41, 2012.7.
- 下夷美幸 「家族介護の現金給付を行うべきか」「離婚後の生活はどう変化したか」福祉社会学会編『福祉社会学ハンドブック——現代を読み解く 98 の論点』中央法規出版, pp.78-79, pp.146-147, 2013.7.
- 小松丈晃 「リスクとは何か——未来の捉えがたい「不安」に立ち向かうために」『Dairy Japan』2011 年 10 月臨時増刊号「経営リスクに備える 18 テーマ」デーリィ・ジャパン社, pp.13-19, 2011.10.

(4) 辞典項目

- 吉原直樹 「空間と場所」「新都市社会学」『キーワード地域社会学』（新訂版）, ハーベスト社, 2011.
- 正村俊之 「予言の自己成就」『社会学事典』丸善, 2010.
- 長谷川公一 「持続可能な社会」「環境ガバナンス」「環境社会学」『社会学事典』丸善, 2010.6.（編集委員として、「環境と技術の社会学」分野の編集を担当）
- 長谷川公一 「資源動員論」「相対的剥奪」「脱原発」「環境運動」『現代社会学事典』弘文堂, 2012, 12.

- 長谷川公一 「山田みづえ」『東北近代文学事典』 勉誠出版, 2013, 6.
- 長谷川公一 「社会学」『日本語大事典』 朝倉書店, 2014, 11.
- 長谷川公一 「持続可能社会」「政治的機会構造論」『社会学理論応用事典』
丸善出版, 2015, 印刷中.
- 小松丈晃 「安心」「不安」「リスク」『現代社会学事典』 弘文堂, 2012.12.
- 小松丈晃 「リスク」『社会学理論応用事典』 丸善出版, 2015, 印刷中.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

- Naoki YOSHIHARA ‘Today’s Trends of Global Mobility in Japan and Indonesia,’
(coordinator) Tohoku University & Udayana University Joint Symposium,
Udayana University, Bali, October, 29, 2010.
- Koichi HASEGAWA, “Climate Change Action in Local Communities,” Japan
Foundation, Center for Global Partnership-Social Science Research Council
Policy Forum Core Group Meeting II, 国際文化会館, 東京都, 2010年3月12
日.
- Koichi HASEGAWA “Media Coverage on Climate Change: COMON Japan Case”,
The International Symposium on Environmental Sociology and Sustainable
Development, Gothenburg, Sweden, July, 10, 2010.
- Koichi HASEGAWA Session 6, Social Sustainability, Environmental Justice and Law,
The International Symposium on Environmental Sociology and Sustainable
Development, Gothenburg, Sweden, July, 11, 2010.
- Koichi HASEGAWA “Local Movement and Local Governance for “Climate Crisis””,
The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July, 14,
2010.
- Koichi HASEGAWA “Local Volunteers for Climate Change Actions toward
Sustainable Learning Community,” The XVII ISA World Congress of Sociology,
Gothenburg, Sweden, July, 15, 2010.
- Koichi HASEGAWA, RC24 Environment and Society, Session 12: Environmental
Issues and People's Voice in Asia と Session 13: Sustainability and Ecological
Democracy in East Asia の Organizer と Chair, The XVII ISA World
Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July, 15, 2010.

- Koichi HASEGAWA "A Comparative Study of Social Movements for a Post-Nuclear Energy Era in Japan and the U.S.," The XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July, 17, 2010.
- Koichi HASEGAWA "Comparative Analysis of Environmental NGOs in Japan, the US and Germany," The 8th East Asian Sociologists' Conference, Korea Maritime University, Pusan, Korea, October, 30, 2010.
- Koichi HASEGAWA "Facing Nuclear Risks: Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster," The 9th East Asian Sociologists' Conference, Nanchang, China, July, 14, 2011.
- Koichi HASEGAWA "Anti-nuclear Movements in Japan," East Asian Law and Society Conference, Yonsei University, Seoul, Korea, October, 11, 2011.
- Koichi HASEGAWA Special Session "*Environmental sociological imagination towards challenge of disasters in Japan*," におけるパネリスト, 3rd International Symposium on Environmental Sociology in East Asia 2011, Catholic University of Korea, Bucheon, Korea, October, 23, 2011.
- Koichi HASEGAWA "Comparing Climate Change Policy Networks in East Asia: Examining Commonalities and Differences of Media Coverage and Society," (共著), 3rd International Symposium on Environmental Sociology in East Asia 2011, Catholic University of Korea, Bucheon, Korea, October, 23, 2011.
- Koichi HASEGAWA "Anti-nuclear Activities and Public Awareness in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Accident," The ISA 2nd Forum of Sociology, University of Buenos Aires, Buenos Aires, Argentina, August, 1, 2012.
- Koichi HASEGAWA Special Session on Changing Japanese Society and the Possibility for New Dynamics under Globalization and the Resilience Process after March 11 Disaster の企画・司会・報告, "Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster: A Sociological Perspective," The 104 American Sociological Association's Annual Meeting, Denver, USA, August, 20, 2012.
- Koichi HASEGAWA "Facing Nuclear Risks: Sociological Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster," The Australian Sociological Association 2012 Conference, University of Queensland, Brisbane, Australia, November, 28, 2012.

- Koichi HASEGAWA “Anti-Nuclear Activities after the Fukushima Nuclear Disaster: "Hydrangeas Revolution" in Japan,” International Congress on Beyond the Crisis: Sociology Facing New Forms of Risk, Uncertainty and Precarity, University of Basque County, Bilbao, Spain, March, 12-3, 2013.
- Koichi HASEGAWA “Anti-Nuclear Energy Protest after the Fukushima Nuclear Disaster,” The Third ISA Conference of the Council of National Associations, Sociology in Times of Turmoil: Comparative Approaches, Middle East Technical University, Ankara, Turkey, May, 13, 2013.
- Koichi HASEGAWA “Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster: Toward a Nuclear Free Society,” Pre-congress Conference: On the Fukushima Nuclear Disaster and History of Environmental Problems, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan, July, 12, 2014.
- Koichi HASEGAWA Japanese Thematic Session 1, Natural/Human Disasters and the Recovery of the Local Society, の企画・報告, “Thinking on a Recovering Process from the 3.11 Disaster,” Japanese Thematic Session 1, The XVIII ISA World Congress of Sociology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan, July, 14, 2014.
- Koichi HASEGAWA Junior Sociologists meets Senior Sociologists のRoundtable G の司会, The XVIII ISA World Congress of Sociology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan, July, 15, 2014.
- Koichi HASEGAWA Plenary Session II.2, Conflicts on Environmental Justice and Sustainable Future, The XVIII ISA World Congress of Sociology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan, July, 17, 2014. の司会
- Koichi HASEGAWA Joint Session, Alternative Lifestyles and Political Activism towards a New Environmentalism: Climate Summits, 'Buen Vivir', Local Food and Voluntary Simplifiers のorganizer, The XVIII ISA World Congress of Sociology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan, July, 19, 2014.
- Koichi HASEGAWA 特別企画高校生横浜みらい会議の企画・運営・司会, The XVIII ISA World Congress of Sociology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan, July, 19, 2014.
- Shinsaku SHIMIZU “Sociological Neoconservative and Intellectual Networks in New York Intellectual Society,” The 39th World Congress of International Institute of Sociology, Yerevan State University, Armenia, July, 13, 2009.

- Shinsaku SHIMIZU “Daniel Bell as a Public Intellectual and Sociological Controversies over Neoconservatism,” The 17th World Congress of International Sociological Association(RC08), Gothenburg, Sweden, July, 13, 2010.
- Kimura, Tadafumi “Self-identity in Media Communication: in Consideration of Frame Analysis”, X VII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden, July 12, 2010.
- Kimura, Tadafumi “Situational Approach to “Individuality: from the Perspective of Frame Analysis””, X VIII ISA World Congress of Sociology, Yokohama, Japan, July 15, 2014.

(2) 国内学会

- 吉原直樹 「地域社会の再生をめざして」(司会), 東北社会学会大会課題報告, 新潟大学, 2010年7月24日
- 正村俊之 日本社会学会史学会50周年記念シンポジウム「社会学の新たなプロブレマティークのために——近代化・共同性・個人化」の討論者, 奈良女子大学, 2010年6月27日.
- 正村俊之 日本社会情報学会合同大会プレカンファレンス I 「アジア太平洋地域の社会情報学」の企画・司会, 長崎県立大学, 2010年9月3日.
- 正村俊之 日本社会情報学会合同大会ワークショップ「先端技術を組み込んだ社会——3D・モバイル・ライフログ」の企画・司会, 長崎県立大学, 2010年9月5日.
- 正村俊之 東北社会学研究会大会シンポジウム「グローバル時代における政治と宗教」の企画・司会, 東北大学, 2010年10月16日.
- 正村俊之 「プログラム科学論から何を受け継ぐか——社会情報学の視点から」, 名古屋大学, 日本社会学会大会, 2010年11月6日.
- 正村俊之 日本社会学会大会シンポジウム「グローバル化する世界——いま何を問うべきか」の企画・討論者, 名古屋大学, 2010年11月7日.
- 正村俊之 「ポスト産業資本主義の論理——新自由主義は何をもたらしたのか」 関西社会学会大会シンポジウム「社会学が捉える現代資本主義——新しい『経済と社会』の可能性」 甲南女子大学, 2011年5月29日.
- 正村俊之 「パネル討論『大震災と向き合う』」のパネリスト, 人工知能学会大会, アイーナ・いわて県民情報交流センター, 2011年6月1日.
- 正村俊之 「社会理論の視点からみた東日本大震災——日本社会の三つの位

- 相に内在するリスク問題」東北社会学会大会(自由報告), 宮城学院女子大学, 2011年7月18日.
- 正村俊之 東北社会学会大会シンポジウム「現代社会における公正と承認」の企画と司会, 宮城女子学院大学, 2011年7月17日.
- 正村俊之 東北社会学会大会特別部会「社会問題としての東日本大震災——社会学はどのようにアプローチするのか」の企画と司会, 宮城女子学院大学, 2011年7月17日.
- 正村俊之 「集合知を社会情報学が取り上げることの意義」日本社会情報学会大会ワークショップ「集合知の社会情報学—社会情報学 BOK 構築への挑戦」, 静岡大学, 2011年9月11日.
- 正村俊之 日本社会情報学会大会・自由報告部会「情報社会論4」の討論者, 静岡大学, 2011年9月11日.
- 正村俊之 日本社会学会大会・研活テーマセッション「東日本大震災を考える(2)——社会学からの提起」の企画と司会, 関西大学, 2011年9月18日.
- 正村俊之 日本社会学会大会シンポジウム「ネオリベラリズムとグローバリゼーション——その影響への社会的接近」の企画と司会, 関西大学, 2011年9月18日.
- 正村俊之 日本学術会議シンポジウム「3.11 福島第一原子力発電所事故をめぐる社会情報環境の検証——テレビ・ジャーナリズム, ソーシャル・メディアの特性と課題」の企画と討論者, 日本学術会議講堂, 2012年6月9日.
- 正村俊之 日本学術会議シンポジウム「震災からの再生～社会学と計画学との対話——復興に向けて, 何を考えるべきなのか」の企画・討論者, 東北大学, 2012年7月29日.
- 正村俊之 社会情報学会(SSI)シンポジウム「社会情報学と世界: 新たな共有と創造に向けて(理論篇)」の企画・司会, 群馬大学, 2012年9月15日.
- 正村俊之 東北社会学研究会大会シンポジウム「社会科学と研究倫理」の司会, 東北大学, 2012年10月6日.
- 正村俊之 日本社会学会大会・招待講演の司会, 札幌学院大学, 2012年11月3日.
- 正村俊之 日本社会学会大会テーマセッション「震災問題を考える(1) ——リスク社会における『社会と科学の関係』」の企画・司会, 札幌学院大学, 札幌学院大学, 2012年11月3日.

- 正村俊之 「東日本大震災とプログラム科学論——近代科学の新たな課題」, 政治社会学会大会テーマセッション「プログラム科学とは何か」, 国際基督教大学, 2012年11月24日.
- 正村俊之 「日本学術会議シンポジウム「震災復興の論理——新自由主義と日本社会」の企画と司会, 2013年3月
- 正村俊之 社会情報学会大会シンポジウム「フクシマ第一原子力発電所事故と社会情報学の課題——科学技術・リスク・(無)知」早稲田大学, 2013年9月13日
- 長谷川公一 日本社会学会大会・テーマセッション「吉田理論の提起したものの——批判的検討」の企画・司会, 第83回日本社会学会大会, 名古屋大学, 2010年11月6日.
- 長谷川公一 「被災地から法社会学・社会科学の課題を考える: 福島原発震災が提起するもの」, 日本法社会学学術大会, 緊急企画「災害・救援・復興をどうとらえるか?」東京大学, 2011年5月7日.
- 長谷川公一 「東日本大震災と復興をめぐる社会学的課題」, 東北社会学会大会, 特別部会「社会問題としての東日本大震災——社会学はどのようにアプローチするのか」宮城学院女子大学, 2011年7月18日.
- 長谷川公一 「東日本大震災をどのような転換点とするのか」, 第84回日本社会学会大会, 研活テーマセッション(1) 東日本大震災を考える (1) ——社会学への問いかけ, 関西大学, 2011年9月17日.
- 長谷川公一 環境系3学会合同シンポジウム「いかにして原子力政策の転換をはかるのか」関西学院大学ハブスクエア大阪, 2012年7月1日.
- 長谷川公一 東北社会学会大会シンポジウム「科学・倫理・社会」企画と討論者, 山形大学, 2012年7月15日.
- 長谷川公一 第40回行動計量学会大会特別セッション「温暖化問題の国際比較研究」企画と司会, 新潟県立大学, 2012年9月15日.
- 長谷川公一 東北社会学研究会大会シンポジウム「社会科学と研究倫理」討論者, 東北大学, 2012年10月6日.
- 長谷川公一 第55回数理社会学会大会招待講演「社会学の国際化の意義」東北学院大学, 2013年3月19日.
- 長谷川公一 東北社会学研究会大会シンポジウム「知識人の死——その社会的意味を問う」企画と司会, 東北大学, 2014年11月1日.

- 長谷川公一 第40回地域社会学会大会シンポジウム「国土のランドデザインと地域社会——大震災と「地方消滅」の現場から」報告「国土のランドデザインと被災地の現実」東北学院大学, 2015年5月10日.
- 永井彰 福祉社会学会第8回大会シンポジウム, 「小規模・高齢化集落(限界集落)の課題と持続可能性」討論者, 九州大学, 2010年5月30日.
- 下夷美幸 「離婚後の養育費問題にみる日本の家族政策——国際比較の視点から」, 第52回比較家族史学会大会シンポジウム, 佛教大学, 2010年6月13日.
- 下夷美幸 東北社会学会大会シンポジウム, 「現代社会における公正と承認」討論者, 宮城女子学院大学, 2011年7月17日.
- 下夷美幸 東北社会学会特別部会「社会問題としての東日本大震災——被災地での社会調査から見えてきたもの」の司会, 山形大学, 2012年7月15日.
- 小松丈晃 東北社会学研究会大会シンポジウム「グローバル化時代における政治と宗教」討論者, 東北大学, 2010年10月16日
- 小松丈晃 「「リスク社会」論以後とシステム理論」, 日本社会学理論学会第6回大会, 2011年9月4日
- 小松丈晃 「科学技術のリスクと<制度的リスク>」第59回東北社会学会大会, 2012年7月15日
- 小松丈晃 「3.11以後の科学技術のリスク規制」第85回日本社会学会大会, 2012年11月3日
- 小松丈晃 「科学技術のリスク管理への社会システム論的接近——ルーマンの組織システム論を軸にして」科学社会学会設立記念大会, 2012年12月2日.
- 小松丈晃 「非知Nichtwissenをめぐる争いと科学/政治」, 東北社会学研究会大会, 2013年10月19日.
- 小松丈晃 「ルーマン『リスクの社会学』の基本的視角とその展開可能性」第3回科学社会学会, 2014年9月27日.
- 木村雅史 「SNS分析の基礎視角——ゴフマンのパースペクティブから」, 日本社会情報学会, 2011年9月11日
- 木村雅史 「CMCの相互行為分析——ゴフマンのパースペクティブから」, 第84回日本社会学会, 2011年9月17日
- 木村雅史 「『状況の定義』と他者認知」, 第86回日本社会学会, 2013年10月

12-13 日

木村雅史 「E.ゴフマンの人——役割図式論」, 第 61 回東北社会学会大会, 2014 年 7 月 27 日

泉啓 「中間施設の薬物依存症者における『社会』/『ここ』の差異認識——施設メンバーへの聴き取りから」, 第 61 回東北社会学会大会, 2014 年 7 月 27 日.

(3) 研究会

正村俊之 東北社会学会研究例会の司会, 2010 年 2 月 27 日.

正村俊之 「なぜ『情報社会論』の新しいパラダイムなのか」 明治大学情報コミュニケーション学部主催 公開研究会「『情報社会論』の新しいパラダイムなのか」の司会・報告者, 2010 年 2 月 27 日

正村俊之 「集合知が求められる時代——個人と社会の関係変容」 札幌学院大学主催 第 20 回社会と情報に関するシンポジウム「集合知と社会情報学: 社会情報学の構築を目指して」 2010 年 2 月 27 日

正村俊之 東北社会学会・研究例会の企画と司会, 東北大学, 2011 年 6 月 25 日.

正村俊之 「『近代科学の再編と社会情報学——東日本大震災から考える——』 「第 3 回 知の創成と検証に関するシンポジウム」 札幌学院大学, 2012 年 8 月 28 日

正村俊之 社会情報学会関東地区・研究例会「情報化による再編成と社会情報学の基礎論——知識・空間・社会」の討論者, 早稲田大学, 2012 年 2 月 19 日.

Koichi HASEGAWA “Public Perceptions, Attitudes, and Political Culture,” Expert Workshop: Ready or Not? Assessing Recent Changes in Japan’s International Crisis Management Capabilities, Institute of East Asian Studies, University of Duisburg-Essen, Duisburg, Germany, 2011 年 10 月 29 日.

長谷川公一 第 29 回日本環境会議松江大会基調講演「福島原発事故から学ぶ脱原子力社会」 島根大学, 2012 年 3 月 16 日.

長谷川公一 日本再興東北フォーラム「日本からアジアへ——脱原子力のメッセージ」 東北大学, 2012 年 3 月 30 日.

長谷川公一 日独シンポジウム「震災・原発震災リスク下の市民社会: 連帯/孤独と信頼/不信の両義性」 国際交流基金, 2012 年 5 月 8 日.

Koichi HASEGAWA “Tackling Environmental Problems and Consumption Society: Strategies from Japanese Social Sciences,” International Thinkshop: Theories and Strategies against Hegemonic Social Sciences, 成城大学, 2012年5月12日.

Koichi HASEGAWA 日本学術振興会・中国社会科学院共催シンポジウム「グローバル化の中の社会変容——新しい東アジア像を形成するために」
“Shifting to a Sustainable Society: Learning from the Great East Japan Earthquake,” 中国社会科学院, 北京, 中国, 2012年8月31日.

長谷川公一 第30回日本環境会議宮城大会「被災地域の復興と再生をどう考えるのか」ホテル観洋, 2013年8月31日-9月1日の企画・運営と司会.

長谷川公一 ニッセイ財団特別研究助成プロジェクト「被災地域コミュニティの復興と再生」研究会成果報告セミナー」如水会館, 2014年9月27日の企画・運営と報告・司会.

長谷川公一 第29回ニッセイ財団助成研究ワークショップ「被災地域コミュニティの復興と再生」東北大学片平さくらホール, 2015年2月7日の企画・運営と報告・司会.

長谷川公一 国連防災世界会議パブリックフォーラム「環境・原発災害と防災に関するシンポジウム」仙台市シルバーセンター, 2015年3月16日の企画・運営と司会.

長谷川公一 国連防災世界会議パブリックフォーラム「気候変動対策と防災に関するシンポジウム」TKP仙台勾当台, 2015年3月17日の企画・運営と司会.

長谷川公一 日本学術会議サイエンスカフェ「核燃料サイクルを考える——環境社会学の視点から」日本学術会議, 2015年3月27日.

永井彰「ハーバーマスの社会理論——視座と方法」東北社会学会2011年度第1回研究例会, 東北大学, 2011年6月25日.

下夷美幸 東北大学大学院文学研究科グローバル COE「社会階層と不平等教育研究拠点」シンポジウム「家族の多様性と不平等の形成」討論者, 東北大学東京分室, 2011年11月13日.

下夷美幸 大原社会問題研究所「子どもの貧困と労働研究会」討論者, 法政大学, 2012年1月28日.

下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会, 東北大学, 2012年2月18日.

下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会, 東北大学, 2012年5月19日.

- 下夷美幸 「イギリスにおける養育費政策の変容——ひとり親の子どもの貧困の視点から」大原社会問題研究所・子どもの貧困と労働研究会，法政大学，2012年7月21日。
- 下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会，東北大学，2012年10月20日。
- 下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会，東北大学，2013年3月9日。
- 下夷美幸 東北社会学会研究例会の司会，東北大学，2013年6月15日。
- 下夷美幸 早稲田大学法学学術院・養育費相談支援センター主催シンポジウム「子どもたちの未来を育てよう——面会交流と養育費を考える」，早稲田大学，2014年1月18日。
- 下夷美幸 「「家族」への支援——養育費政策の現状と課題」，日本家族社会学会・日本学術会議社会学委員会少子高齢社会分科会 公開シンポジウム「少子高齢化と日本型福祉レジーム」，東京女子大学，2014年9月7日。
- 下夷美幸 「ケア政策における家族の位置」，第12回ジェンダー法学会シンポジウム「貧困からの脱却とジェンダー」，奈良女子大学，2014年12月7日。
- 小松丈晃 第58回東北社会学会大会での自由報告部会「東日本大震災の社会学」の司会，2011年7月18日。
- 小松丈晃 第1回科学社会学会設立記念大会でのセッション2「「リスク論」をこえて」の企画・司会・報告，2012年12月2日。
- 小松丈晃 第86回日本社会学会大会での研究活動委員会企画テーマセッション「リスク社会論再訪」の企画・司会，2013年10月12日。
- 小松丈晃 第3回科学社会学会大会でのセッション「ルーマンのリスク論再考」の企画・報告，2014年9月27日。

(4) 海外招待講演

- Koichi HASEGAWA “Dynamism of Environmental Movements and Policy in Japan,” Public Lecture hosted by Japanese Area Studies, University of Indonesia, April, 16, 2010.
- Koichi HASEGAWA “Thinking about the Fukushima Nuclear Disaster: Lessons and the Way to a Post-Nuclear Society,” Pusan National University, Busan, Korea, June, 22, 2011.
- Koichi HASEGAWA “Turning to a Post-Nuclear East Asia: Lessons from the

- Fukushima Nuclear Disaster,” Korean Sociological Association’s Annual Meeting, Chungnam National University, Daejeon, Korea, June, 24, 2011.
- Koichi HASEGAWA “Disaster, Risk Society and the Third Sector: the Japan Experiences,” The Taiwan Association for the Third Sector Research’s Annual Meeting, National Chengchi University, Taipei, Taiwan, September, 24, 2011.
- Koichi HASEGAWA “Public Perceptions and Citizen's Activism on Nuclear Risks before and after the Fukushima Nuclear Accident,” Nissan Institute Lecture Theatre: The Disasters of 11th March 2011 ——One Year on, Nissan Institute of Japanese Studies, University of Oxford, UK, March, 24, 2012.
- Koichi HASEGAWA “Toward a Post-Nuclear Society: Examining the 3/11 disaster and Nuclear Risks,” Symposium: Towards Long-term Sustainability: Response to the 3/11 Earthquake and the Fukushima Nuclear Disaster, Center for Japanese Studies, University of California, Berkeley, USA, April, 20, 2012.
- 長谷川公一 気候変動に係わる市民参加及びキャパシティビルディングセミナー基調講演「市民地域とともに気候変動対策——市民参加の事例から」日中友好環境保護センター, 北京, 中国, 2012年4月25日.
- Koichi HASEGAWA “Anti-nuclear Activism in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Accident,” International Symposium “The Disaster of Fukushima and the Future of the Nuclear Power: Learning from the Experience,” Universidad Popular Autónoma de Puebla, Puebla, Mexico, June, 15, 2012.
- Koichi HASEGAWA “Rethinking on Civil Society in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Accident,” International Symposium on “Rethinking Nature in Contemporary Japan: Science, Economics, Politics,” Ca' Foscari University of Venice, Venice, Italy, February, 25-26, 2013.
- Koichi HASEGAWA “Anti-Nuclear Activities after the Fukushima Nuclear Accident: New Stage of the Japanese Civil Society” International Workshop on “Civil Society, Political Participation and Happiness,” Werner Reimers Stiftung, Bad Homburg, Germany, May, 23-25, 2013.
- Koichi HASEGAWA “The Fukushima Nuclear Accident and Changing Civil Society in Japan,” The 2013 East Asia Sociologists' Network Special Symposium, Seoul National University, Seoul, Korea, October, 25-26, 2013.

Koichi HASEGAWA "Toward a Building Real Sustainable Future: Learning from the Great East Japan Earthquake," The Asia Pacific Sociological Association 2014 Conference, Chiang Mai University, Chiang Mai, Thailand, February, 15-16, 2014.

Koichi HASEGAWA "At the Crossroads of Energy and Politics: Shifting to a Sustainable Society," International workshop on "Analysis and Evaluation of Climate Change Strategies," The Asia Climate Change Education Center, Jeju, Korea, May, 23, 2014.

Koichi HASEGAWA "Fukushima Nuclear Accident and Changing Civil Society in Japan," 2014 Japan Update: Political, Economic and Social Change in Australia-Japan Research Centre, Australian National University, Canberra, Australia, October, 17, 2014.

Koichi HASEGAWA "Changing Japan's Civil Society and Advocacy After the Fukushima Nuclear Accident," Lecture Series on "Current Political Affairs and Civil Society in Japan" in Institute of Asian and Oriental Studies, University of Zurich, Zurich, Switzerland, October, 23, 2014.

Koichi HASEGAWA "Japan's Environmental Movements: The history, the structure and the limits," Workshop on "Social Movements in Theory and Practice: Concepts and Experiences from Different Regional Contexts," The University Research Priority Program Asia and Europe, University of Zurich, Zurich, Switzerland, October, 24-25, 2014.

Koichi HASEGAWA "Thinking On Environmental Movements in Japan: The history, the structure and the limits," Guest lecture in Center for East Asian Studies in the University of Turku, Turku, Finland, February, 20, 2015.

2 教員の受賞歴 (2010年度～2015年5月20日)

吉原直樹 第3回地域社会学会賞, 2010年

長谷川公一 国際社会学会クリスタル・アワード受賞, 2014,7.

IV 教員による競争的資金獲得 (2010～2015年度)

(1) 科学研究費補助金

(2010-2012年度) 課題番号 22402035,基盤 (B), アジアメガシティの多層化するモビリティとコミュニティの動態に関する経験的研究, 研究代表者,

- 吉原直樹, 14,200,000 円 (3 年間総額)
- (2008-2010 年度) 課題番号 20730323, 若手研究(B), 政府・宗教組織・コミュニティの「協働」に基づく社会関係資本の貧困救済効果, 研究代表者: 清水晋作, 4,160,000 円 (3 年間総額).
- (2010—2012 年度)課題番号 22300036, 基盤研究(B)学際的学問分野における BOK 策定を事例とした知の創成と検証支援システムの研究・開発,研究分担者: 正村俊之, 7,020,000 円(3 年間総額)
- (2011—2014 年度)課題番号 24243057, 基盤研究(A)東日本大震災と日本社会の再建—地震, 津波, 原発震災の被害とその克服の道,研究分担者: 正村俊之,35,400,000 円(4 年間総額)
- (2010—2013 年度)課題番号 22243036, 基盤研究(A) 温暖化政策の政策形成過程と政策ネットワークの国際比較研究,研究代表者: 長谷川公一, 24,600,000 円(4 年間総額)
- (2010—2014 年度)課題番号 22243038, 基盤研究(A)日本における社会学教育・研究の国際化をめざす総合的研究,研究分担者: 長谷川公一, 32,000,000 円 (5 年間総額)
- (2014—2016 年度)課題番号 26285117, 基盤研究(B) 世界の社会学における日本の社会学の位置とその可能性の研究——世界社会学会議の場合,研究分担者: 長谷川公一, 12,500,000 円(3 年間総額)
- (2015—2017 年度)課題番号 15H03406, 基盤研究(B) 日・韓・英・独 4ヶ国の温暖化・エネルギー政策と政策ネットワークの比較分析,研究代表者: 長谷川公一, 15,990,000 円(3 年間総額)
- (2010-2012 年度)課題番号 22530523, 基盤研究(C),地域ケア・システムの再編成にかんする社会学的比較研究,研究代表者: 永井彰, 3,100,000 円 (3 年間総額)
- (2010—2012 年度)課題番号 22530525, 基盤研究 (C), 離婚母子世帯の子ども
の扶養をめぐる福祉国家と家族の関係に関する日英比較研究,研究代表者: 下夷美幸,1,500,000 円(3 年間総額)
- (2013—2015 年度)課題番号 25380650, 基盤研究 (C), 離婚後の親子に関する
家族規範の実証的研究,研究代表者: 下夷美幸,2,000,000 円(3 年間総額)
- (2012—2014 年度)課題番号 24530596 基盤研究 (C), 社会学的リスク論による「リスクガバナンス」モデル構築のための学説史的・理論的研究, 研究代表者: 小松丈晃, 2, 645, 000 円 (3 年間総額)

(2) その他

(2009-10 年度) トヨタ財団アジア隣人プログラム助成, 研究代表者: 吉原直樹「バリ島に残存するヒンドゥー法典『アウイグ・アウイグ』の収集・整理と保存・継承」, 350 万円

(2012 年度-13 年度) 日本生命財団研究助成「被災地域コミュニティの復興と再生--自治体・NGO との協働によるボトムアップ型政策提言」研究代表者: 長谷川公一 1200 万円

V 教員による社会貢献 (2010 年度～2015 年 5 月 20 日)

吉原直樹 教授

- ・ 日本学術会議連携会員 (2004 年 9 月～2011 年 9 月)
- ・ 特定非営利法人せんだい・みやぎ NPO センター評議員 (2000 年～現在)

正村俊之 教授

- ・ 仙台市情報化推進会議委員, 2007～2010 年度
- ・ 関西学院大学出版会評議委員, 2004 年度～
- ・ 日本学術振興会・科研費第一段審査委員(図書館情報学・人文社会情報学), 2010 年度
- ・ 特別推進研究の評価報告書の作成, 2011 年
- ・ 宮城県山元町での記者会見(日本社会情報学会 JSIS の代表として), 2011 年 7 月 30 日
- ・ 講演「グローバリゼーションと東日本大震災」岩手県国際交流協会, 2011 年 9 月 25 日.
- ・ 日本学術会議連携会員・社会学委員会・社会理論分科会グローバリゼーション小委員会委員長およびモダニティ小委員会委員 (2011 年度～)
- ・ 日本学術会議連携会員・社会学委員会・東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会委員・幹事(2011 年度～)
- ・ 日本学術会議連携会員・社会学委員会・メディア・文化研究分科会委員(2011 年度～)
- ・ 文部科学省「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」内・山

- 元町 ICT 推進事業『山元復興学校』校長（共同代表）, 2012 年度
- ・復興大学「復興の社会学」の講師, 2012 年

長谷川公一 教授

- ・日本学術会議特任連携会員（2011 年 1 月～）
- ・日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム類型別審査・評価部会委員（2011 年度-）
- ・『環境と公害』編集同人（1998 年-）
- ・宮城県自然エネルギー・省エネルギー促進審議会委員（2002 年度—）
- ・宮城県地球温暖化防止活動推進センターセンター長（2003 年度—）
- ・環境省環境教育等推進専門家会議（2011 年 10 月-2012 年 8 月）
- ・一般社団法人地球温暖化防止全国ネット理事長（2010 年 8 月-）
- ・登米市地域新エネルギービジョン策定委員会委員長（2009 年 7 月-2011 年 3 月）
- ・高木仁三郎市民科学基金選考委員（2007 年度—2011 年度）
- ・高木仁三郎市民科学基金選考委員長（2008 年度・09 年度・10 年度）
- ・認定特定非営利法人原子力資料情報室理事（2015 年度—）
- ・社団法人社会調査協会理事（2009 年—）
- ・社団法人社会調査協会倫理委員会委員長（2009 年—）
- ・財団法人せんだい男女共同参画財団理事（2001 年度—2012 年度）
- ・公益財団法人せんだい男女共同参画財団評議員（2013 年度—）
- ・財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事（2000 年度-2012 年 1 月）
- ・財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事長（2007 年 7 月-2012 年 1 月）
- ・公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク理事長（2012 年 2 月-）
- ・特定非営利法人せんだい・みやぎ NPO センター監事（1997 年-）
- ・東北大学文学部「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」の企画と運営（2007 年-）
- ・講演「温暖化会議と市民の力——COP15 の現場から」滋賀県地球温暖化防止活動推進員研修会, 2010 年 2 月 11 日.
- ・講演「地域の温暖化対策の最前線——地球温暖化防止活動推進員の意

義と課題」広島県地球温暖化防止活動推進員研修，2010年2月24日。

- ・講演「COP15とNPO/市民」MELON・COP15参加報告・国際交渉シンポジウム，2010年3月8日。
- ・講演「地球温暖化問題への社会的視点」大学生生活協同組合東北事業連合通常総会基調講演，2010年5月29日。
- ・講演「エネルギー政策転換について」民主党地方自治体議員フォーラム第10回総会基調講演，2011年7月18日。
- ・講演「脱原子力は可能か」仙台市職員労働組合女性部第45定期総会記念講演，2011年7月18日。
- ・講演「脱原子力社会とエネルギー問題——3.11後を生きる」朝日カルチャーセンター新宿教室，2012年2月24日。
- ・講演「原発のない社会をめざすには」民主党地方自治体議員フォーラムグリーンテーブル発足記念総会基調講演，2012年7月18日。
- ・講演「脱原子力社会はこうつくる」佐高信政治塾講演，2012年7月24日。
- ・講演「これからの暮らしとエネルギー——未来へ私たちができること」MELON会員と市民のつどい講演，2012年9月29日。
- ・復興大学「復興の社会学」の講師，2012年10月13日，2013年10月9日，2014年11月8日。
- ・講演「脱原子力社会に向けて」静岡大学人文社会学部シンポジウム「3.11後の原発と地域の未来」講演，2012年11月18日。
- ・講演「原子力問題の袋小路——六ヶ所村は何を提起しているのか」民主主義科学者協会法律部会春合宿講演，2013年3月26日。
- ・講演「やっちはいけない地層処分」ほろのべ核のゴミ全国交流会講演，2013年8月3日。
- ・講演「原子力に依存しない未来をどう拓くか」長野県高等学校教育文化会議下伊那支部教育研究集会，2013年9月14日。
- ・講演「日本における再生可能エネルギーの現状と課題」仙台弁護士会主催人権擁護大会プレシンポジウム「脱原発後の電力政策のあるべき姿——ドイツと比較して」，2013年9月21日。
- ・講演「福島第一原発事故と日本の市民社会」愛知大学文学会公開講演会，2013年11月28日。

- ・講演「今後のエネルギー政策のあり方」第45回食とみどり、水を守る全国集会，2013年11月30日。
- ・講演「地球温暖化防止活動推進センターと推進員——期待と協働」あきた地球環境会議講演会，2014年5月31日。
- ・講演「脱原子力社会をつくるために」京都自由大学一般講座，2014年6月6日。
- ・講演「震災後の暮らしと環境を考える」東北大学「被災地域コミュニティの復興と再生」研究会公開講座，2014年6月28日。
- ・講演「リスク社会と倫理」国際高等研究所創設30周年記念仙台フォーラム「持続可能社会の構築と安心・安全」パネリスト，2015年1月24日。
- ・講演「地域から低炭素社会をつくるには」青森県地球温暖化防止活動推進センター環境活動発表交流会プログラム，2015年1月31日。
- ・講演「地球温暖化防止とエネルギー——環境社会学の視点から」しづかわ市民環境大学，2015年2月28日。
- ・講演「再生可能エネルギーを地域の活力にしよう」山形県庄内総合支庁「庄内地域再生可能エネルギー推進研究会」，2015年3月3日。
- ・講演「低炭素社会への転換をめざして——エネルギーと社会」群馬県地球温暖化防止活動推進センター設立10周年記念講演，2015年3月13日。
- ・講演「東北地方における低炭素社会を目指したこれからの暮らし」環境省東北地方環境事務所「地球温暖化対策を考えるシンポジウムin山形・最上町」，2015年3月14日。

永井彰 教授

- ・宮城県保健福祉部指定管理者選定委員会委員，2010年，2011年，2013年。
- ・「災害弱者の支援と自立について」宮城県市町村職員研修所防災研修，2010年4月27日。
- ・日本学術振興会 特別研究員等審査会および国際事業委員会 特別研究員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査員，2010-2011年。
- ・「地域社会の自立と自治を考える」東北大学大学院文学研究科と市民のセミナー第11期有備館講座，2012年8月11日。
- ・東北文化公開講演会「表象としての身体——死の文化の諸相」の企画運

営, 2012年11月24日～25日.

下夷美幸 教授

- ・ 仙台市男女共同参画推進審議会副会長 (2009年度～2010年度)
- ・ 仙台市市民局指定管理者選定委員会委員 (2010年度)
- ・ 厚生労働省・養育費相談支援センター事業に係る企画評価委員会委員 (2011年度～)
- ・ 仙台市男女共同参画審議会会長 (2011年度～)
- ・ 仙台市民生委員推薦会委員 (2011年度～)
- ・ 講演「養育費確保に関する制度的課題」, 養育費相談支援センター・平成22年度研修講師等研究会, 東京芸術劇場会議室, 2010年5月24日.
- ・ 講義「現代家族の社会学」, 平成24年度みやぎ県民大学, 東北大学, 2012年10月13日
- ・ 講義「家族の絆—いま, 求められる新しい形—」, 平成24年度スマート・エイジング・カレッジ, 加齢医学研究所スマート・エイジング国際共同研究センター, 2012年11月9日.
- ・ 講演「日本の養育費政策の現状と課題」, 大阪弁護士会シンポジウム「養育費のあり方を考える」, 大阪弁護士会館, 2012年11月17日.
- ・ 講義「現代日本の家族問題」, 東北大学大学院文学研究科と市民のセミナー第13期有備館講座, 2岩出山公民館, 2014年8月23日.
- ・ 講演「母子世帯の貧困と日本の家族政策」, 仙台Iゾントクラブローズデー記念講演会, 仙台国際ホテル, 2015年3月6日.

小松丈晃准教授

- ・ 函館市教育委員会・函館市社会教育委員会 委員 (2011年度)
- ・ 市立函館病院倫理委員会委員 (2014年度)
- ・ 函館市公務災害補償等審査会委員 (2014年度)
- ・ 講演「社会学におけるリスク研究」, (株)リクルート・ワークス研究所(東京), 2010年2月1日
- ・ 講演「単位互換授業の充実と拡大」, キャンパスコンソーシアム函館・戦略的連携フォーラム2010 (函館市) 2010年6月5日
- ・ 講演「町内会・自治会の現状と課題」, 中標津町パートナーシップで進めるまちづくり・アンケート調査中間報告会(北海道中標津町), 2010

年9月3日

- ・講演「社会学とリスク研究」北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院主催「リスクプロジェクト」, 2012年3月5日～6日

VI 教員による学会役員等の引き受け状況 (2010～2015年度)

吉原直樹 教授

- ・日本学術会議連携会員 (2007年8月～)
- ・地域社会学会会長 (2010年5月～)
- ・日本社会学会学会賞選考委員 (2009年11月～)
- ・地域社会学会賞選考委員会委員 (2007年度～)
- ・コミュニティ政策学会理事 (2004年7月～)
- ・東北都市学会理事 (2000年5月～)
- ・社会学系コンソーシアム評議員 (2010年～)

正村俊之 教授

- ・日本社会学会奨励賞選考委員(図書部), 2009～2010年度
- ・日本社会情報学会理事, 2009年度～
- ・東北社会学会理事(研究活動委員長), 2009～2010年度
- ・東北社会学研究会編集委員, 2009～2010年度
- ・日本社会学会奨励賞選考委員(図書部), 2009～2010年度
- ・日本社会情報学会・研究委員会委員長, 2010年度～
- ・日本社会情報学会大会発表賞選考委員, 2010年度
- ・日本社会情報学会(JSIS&JASI)合同大会(JSIS側)実行委員長 2010年度
- ・日本社会学会研究活動委員, 2010年度～
- ・東北社会学研究会会長, (2010年度～)
- ・日本社会情報学会(JSIS)副会長(2012年度)
- ・社会情報学会(SSJ)理事・研究活動委員会委員長(2012年度～)
- ・日本学術会議連携会員(2012年度～)

長谷川公一 教授

- ・日本社会学会理事 (2009年10月～2012年11月).

- ・日本社会学会国際交流委員長（2009年10月～2012年11月）.
- ・日本社会学会世界社会学会議組織委員会委員長（2009年11月～）.
- ・東北社会学会理事（2011年7月～）.
- ・東北社会学会会長（2013年7月～）.
- ・東北社会学研究会会長（2014年11月～）.

- ・国際社会学会研究分科会「環境と社会」会長（2014年7月～）.
- ・日本環境会議理事（1998年度～2013年度）.
- ・日本環境会議代表理事（2013年度～）.
- ・環境経済・政策学会理事（2013年度～）.

永井彰 教授

- ・福祉社会学会理事（2009～2010年度）
- ・福祉社会学会研究委員（2011～2012年度）
- ・東北社会学研究会編集委員（2010～2011年度）
- ・東北社会学会理事（2007～2010年度）

下夷美幸 教授

- ・日本社会学会・『社会学評論』編集委員（2009年度～2012年度）
- ・東北社会学会年報・編集委員（2009年度～2010年度）
- ・福祉社会学会・研究委員（2010年度）
- ・東北社会学研究会・会計委員（2010年度～2011年度）
- ・福祉社会学会・理事（2011年度～2012年度）
- ・東北社会学会・理事・研究活動委員長（2011年度～2012年度）
- ・日本社会学会・奨励賞推薦委員（2012年度）
- ・家族問題研究学会・編集委員（2012年度～）
- ・東北社会学研究会・編集委員（2012年度～2014年度）
- ・家族社会学会・専門委員（2012年度～）
- ・東北社会学会・編集委員長（2013年度～）
- ・日本社会学会・学会組織問題検討特別委員会（2014年度）

小松丈晃 准教授

- ・日本社会学会・選挙管理委員会委員長（2012年度）

- ・日本社会学会・研究活動委員会委員（2012年度～）
- ・科学社会学会・研究活動理事（2012年度～）

清水晋作 助教

- ・東北社会学会研究会編集委員(2004年9月～2009年10月)
- ・東北社会学会研究会庶務委員(2008年9月～2009年9月)
- ・東北社会学会理事・庶務委員（2009年7月～2011年7月）

木村雅史 助教

- ・東北社会学会年報編集委員（2009年7月～）
- ・東北社会学会理事・庶務委員（2009年7月～）
- ・東北社会学会研究会庶務委員（2009年10月～）

泉啓 助教

- ・東北社会学会研究会編集委員（2013年10月～）
- ・東北社会学会理事・庶務委員（2014年7月～）
- ・東北社会学会研究会庶務委員（2014年10月～）

VII 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2015年度)

1 大学院授業担当

長谷川公一教授

- 社会変動学特論
- 社会変動学研究演習 I ～ II
- 社会学調査実習 I ～ II

永井彰教授

- 理論社会学特論
- 理論社会学研究演習 I ～IV

下夷美幸教授

- 社会変動学特論
- 社会変動学研究演習 II, IV

小松丈晃准教授

地域社会学研究演習 I～IV

泉啓助教

社会学調査実習 I～II

2 学部授業担当

長谷川公一教授

社会学各論

社会学概論

社会学実習

永井彰教授

社会学各論

社会学演習

下夷美幸教授

社会学概論

社会学基礎演習

社会学各論

社会学演習

小松丈晃准教授

社会学基礎演習

社会学演習

泉啓助教

社会学実習

社会学基礎演習

3 共通科目・全学科目授業担当

永井彰教授

社会学

小松丈晃准教授

社会学

(2) 他大学への出講 (2010～2015 年度)

吉原直樹 教授

横浜市立大学 (2001 年度～現在)

正村俊之 教授

宮城学院女子大学, 2012 年度

放送大学, 2012～2013 年度

長谷川公一 教授

放送大学 (2011 年度)

神戸大学 (2011 年度)

宮城学院女子大学 (2012 年度)

下夷美幸 教授

お茶の水女子大学 生活科学部 (2010 年度)

放送大学 (2015 年度)

清水晋作 助教

東北薬科大学 (2010 年度)

木村雅史 助教

仙台医療センター助産看護学科 (2008 年度～2011 年度)

大崎市医師会附属高等看護学校 (2010 年度)

東北文化学園大学 (2011 年度)

東北工業大学 (2011 年度～)

奥羽大学 (2014 年度～)

泉啓 助教

東北電子専門学校 (2012 年度～)

尚綱学院大学 (2014 年度～)